

## 大津の3人組バンド 学校でライブ

不登校を経験した大津市の3人組のバンドが小中学、高校で歌と語りを交えたライブを開き、不登校への理解を訴えている。リーダーの八田典之さん(29)は「自分たちにしか伝えられない言葉で、不登校で悩む子どもや周りの人々を減らしたい」と願っており、ライブを聴いた生徒たちからは不登校の意味を考える率直な手紙が寄せられている。

【村瀬優子、写真も】

幼なじみの3人グル っていいのさ。

ライブ「JERRY RYBE ANS」で、八田さんは中学1年の時、不登校の子を持つ親の集まりで、当時小学5年だった双子の山崎雄介さん(28)と史朗さん(28)に出会った。好きな楽器を一緒に演奏するようになり、98年にバンドを結成。自分たちが一番つらかった時にかけてほしかった言葉などを曲にしてきた。

♪何屋も迷いながら歩いている

その道は誰とも違うから

君はちゃんと胸を張

ライブでは曲の合間に3人が自身の体験を約15分ずつ語る。八田さんは、友人関係の悩みなどから小学6年の秋から中学3年まで不登校になった。「親に心配かけてる自分は最低やと思って、家でも心が休まらなかった」といい、「誰とも比べず、自分らしく生きていくことが一番大切」と訴える。雄介さんは罪悪感などで自殺を考え、母親から「不登校って、死ななあかんほど悪いことなんか」と泣きながら抱きしめられた体

## 不登校経験 歌で訴え

助を打ち明ける。3人は中学卒業後、アルバイトをしながら活動を続け、約8年前からロコミやホームページで知った小中学校の生徒たちからは「私にトさせて活動の幅を広げるつもりだ。問い合わせはスタッフの小橋泰明さん(090・6320・0985)」。3人は中学卒業後、アルバイトをしながら活動を続け、約8年前からロコミやホームページで知った小中学校の生徒たちからは「私にトさせて活動の幅を広げるつもりだ。問い合わせはスタッフの小橋泰明さん(090・6320・0985)」。



「どれだけゆっくりでも、自分らしく」と訴える(左から)八田さんと、双子の山崎雄介さん、史朗さん—大津市で